

報告

日本語力の向上を目指して

堤 和博¹⁾ 岸江信介¹⁾ 仙波光明¹⁾ 村田真実²⁾ 清水勇吉²⁾¹⁾ 徳島大学大学院 ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部 ²⁾ 徳島大学大学院総合科学教育部

(キーワード: 日本語力、診断テスト、分析、日本語力の比較)

Aiming at Improvement of Student's Japanese Ability in the University of Tokushima

Kazuhiro TSUTSUMI¹⁾ Sinsuke KISHIE¹⁾ Mitsuaki SENBA¹⁾ Mami MURATA²⁾ Yukichi SHIMIZU²⁾¹⁾ Institute of Socio-Arts and Sciences, The University of Tokushima²⁾ Faculty of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima

(Key words: Japanese Ability, Japanese test, analysis, comparison of tests over the past four years)

1. はじめに

日本語力は「表現(書く・話す)」と「理解(読む・聞く)」の2領域における日本語の運用能力をさす。大学入学時の段階で日本語力を測定することにより、この力がどの程度備わっているかを測定することは入学後の大学教育においても重要な意味をもつ。

2008年度に新入生を対象とした日本語力テストを実施して以来、本年度で当テストは4度目となった。全国の大学生の日本語力が低下傾向にある¹⁾のは過去3年間にわたり指摘し続けてきたことであるが、当テストの実施は、徳島大学への入学者の日本語力がどのような状況にあるのか、その傾向をまさにつかむためのものであった。

本年度もこの趣旨に沿い、高校卒業程度の日本語力があるかどうかのチェックを行うのがこのテストの目的である。ただ、毎年開催される『大学入門講座・オリエンテーション反省会』においてすでにこれまで何度も指摘を受けているように、このテスト結果をどのように学生にフィードバックさせるか、換言するならばこの日本語力を診断した結果を踏まえ、どのように日本語力の向上に繋げていくかが大きな課題となる。本年度は、この点を強く意識しながら入学段階の日本語力テスト実施のみならず、12月に共通教育の日本語関連のクラスにおいて東京書籍の協力のもと、実験的に日本語検定試験の一部実施(約110名が受検)を行った(資料参照)。来年度以降、計画的に学生にも日本語力向上のための教材提供をすすめてい

きたいと考えている。

2. 第4回日本語力テストの実施

今年度も昨年度と同様、日本語力測定のための領域を漢字、敬語、文章表現、ことばの意味、語彙、文法とし、各領域相互のバランスを考え、問題数を2008・2009年度の1.5倍に増やし、出題した。設問を多くした理由は、より正確に診断結果を把握することを目指したからである。

本年度の学科別解答者数を表1に示す。なお、表中の「総人」は総合科学部人間文化学科、「総社」は社会創生学科、「工化」は工学部化学応用工学科、「工生」は工学部生物工学科、「工電」は工学部電気電子工学科、「工知」は工学部知能情報工学科、「工(夜)」は工学部夜間主コースを指し、以下図表中ではこれに従う。

表1 学科別解答者数

回答者総数: 550名			
総人: 99名	工化: 81名	工電: 101名	工(夜): 55名
総社: 100名	工生: 63名	工知: 76名	

前年度までは全学で実施していた本テストだが、今年度は学科単位で実施自由としたために、夜間主コース(工学部)を含めて7学科、550名の解答しか得られなかったことを付記しておく。

テスト問題のレベルは、高校卒業程度のものを

選び、問題は東京書籍の許可を得て、石川ほか(2007)を利用した²⁾。日本語力テスト問題の構成は6種類のジャンルを設定し、問題数は全体で47問である。各ジャンルの内容を表2に示す。

表2 出題ジャンルの内訳

問1 異字同訓(漢字)	6問
問2 手紙文における敬意表現(敬語)	5問
問3 基本動詞に対応する尊敬語(敬語)	5問
問4 慣用表現1(文章表現)	5問
問5 文脈に即した適切なことば(文章表現)	5問
問6 慣用表現2(文章表現)+意味	10問
問7 類義語と対義語(語彙)	6問
問8 熟語の構成(文法)	5問
計	47問

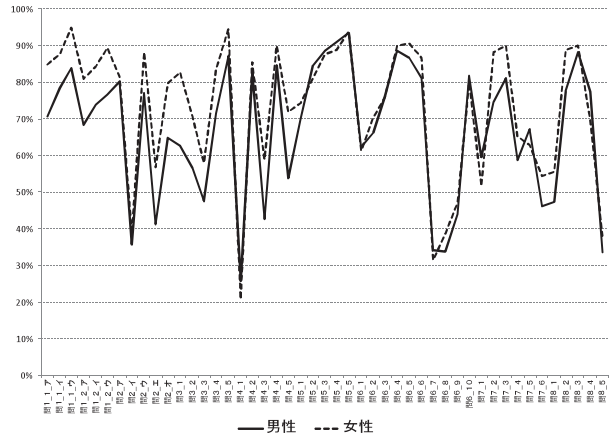


図2 設問別正答率(男女別)

図2から、全般的に女子学生の方が優れているという傾向が読み取れるであろう。

3. 日本語力テスト結果と分析

日本語力テストは特定非営利法人「日本語検定委員会」が毎年実施している『日本語検定』に準拠し、同法人が設定している7級から1級までのうち、3級からの出題を行った。このレベルは高校卒業程度レベルの日本語力としては、正答率70%以上が求められる(石川ほか2007)。

日本語力テスト解答者全体の「成績度数分布」を図1に、男女別の設問別正答率を図2に示す。

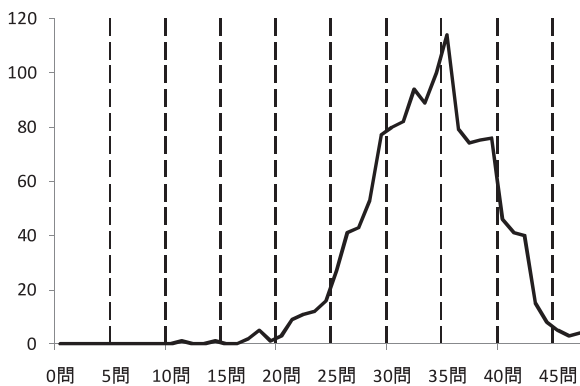


図1 成績度数分布

3.1. 問1 異字同訓の使い分け

問1は、異字同訓の漢字を適切に使い分けられるかを試す問題である。この問題では字義の理解、そして問題文の文意を正しくつかむことが求められる。対象とする漢字は、「一」では「乱暴である、あらあらしい」を意味する「荒」、「おおざっぱである」を意味する「粗」の漢字の組み合わせを、「二」では「ひかえめにする」を意味する「慎」、「(特に言葉について)つつしむ」を意味する「謹」の組み合わせを問題として設置した。「一」は、アは金遣いがあらい、イは人遣いが乱暴、ウは組み方がおおざっぱであるという文意である。「二」は、アが飲酒を、さらにウはしゃべることをひかえることであり「慎」が正しく、イが恭しく祝いの言葉を述べるという意味になり、「謹」が正しい。

この問1については2009年度、2010年度共に80%に近い正答が得られており、本年も全体を通して79.0%の正答率が得られた。また、小問別に結果(図3)を見ても、70%以上の正答が得られており、どの学科も出題された異字同訓の漢字を概ね適切に使い分けられていると言える。男女別に見た場合に、女性の方が正答率が高く、男性の方が正答率が低いという特徴が見られた(図2)。

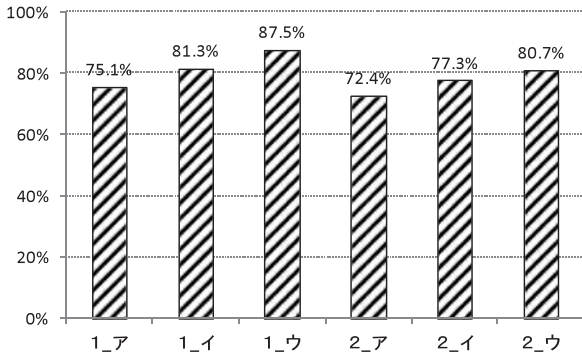


図3 問1の設問別正答率

3.2. 問2 第三者に対する敬意表現（敬語）

日本語力のなかで敬語は特殊な位置づけとなる。敬語は本来、対人関係上の上下関係や社会的心理的距離に応じて使用される待遇表現である。運用経験の少ない高校生にとっては具体的にどのような場面でどのような敬語を運用すべきか判断する機会がほとんどなく、あくまでも運用の知識を問うという状況を理解しておくことが大事である。

問2、問3は敬語に関する問題で、問2については手紙の中で使われる敬語について問うており、特に第三者に対する敬意が適切に表現出来るか試す問題である。図4は問2の小問別正答率であるが、問1とは異なり問題ごとの正答率にばらつきがあることが分かる。あるいは非常に正答率の低い問題があることが見て取れよう。

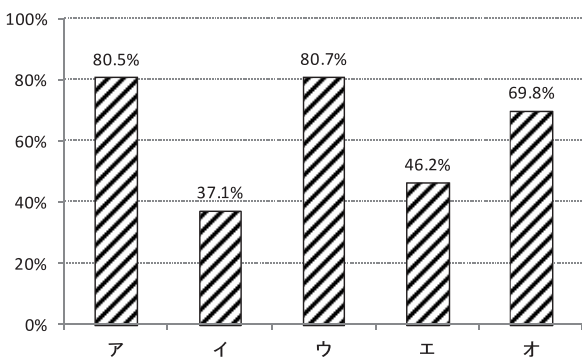


図4 問2の設問別正答率

それぞれの問題の正答と、多かった誤答について小問別に見ていく。

アは「聞く（文中では「聞き）」の謙譲語を答える問題であり、正答は「伺う（文中では「伺い）」であった。アの正答率は80%を超えた。

イは、敬意を表す語を普通語に言い添える表現形式についての問題である。正答は「ご出席くださる」である。この問題は例年誤答が多く（図5）、本年も他の選択肢に回答が集中した。特に、③「ご出席される」に解答が集中し、次点で正答の②「ご出席くださる」、誤答の①「ご出席になられる」が続いた（図6）。「ご～くださる」という恩恵を含んだ表現に馴染みがなかったのが、正答率を下げた原因だろうか。しかし、この問題については恩恵を含んだ表現に馴染みがなくとも、正答出来るはずである。何故なら、解答者の間違いとして多かった「ご出席される」「ご出席になられる」は、前者は謙譲語「ご～する」に尊敬の助動詞が接続した形、後者は尊敬語「ご～になる」に尊敬の助動詞が接続した形であり、どちらも二重敬語となっており、本来選ぶべきではないものだからである。

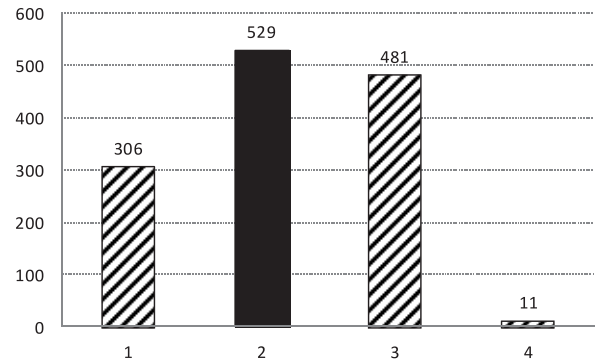


図5 イの回答内容（2010年度）

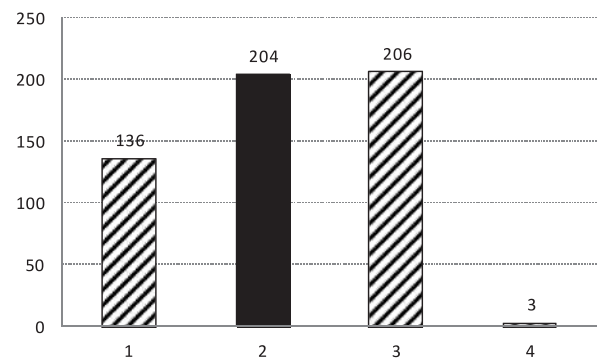


図6 イの回答内容（2011年度）

ウもアと同様に、正答率が80%を超えている。問題の内容は、「知る」の尊敬語を選ぶ問題である。アやウのように単純に単語を尊敬語／謙譲語に直

す問題は正答率が高い。

エは、正答率 50%を割る残念な結果となっている。②「おっしゃっ(て)」という選択肢を選ぶべきところであるが、③「おっしゃられ(て)」を選ぶ解答者の数が 270 人を上回った(図 7)。この誤答③「おっしゃられ(て)」は尊敬語「おっしゃる」に尊敬の助動詞が接続した形であり、二重敬語である為、適切な日本語とは言えない。

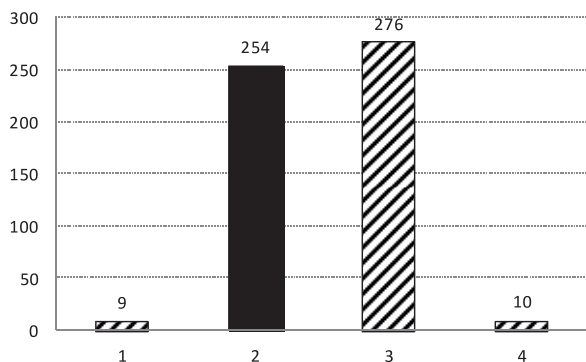


図 7 エの回答内容

オは、70%程度の正答率が得られた問題である。「する」の尊敬語を選ぶ問題であり、正答は①の「なさる(文中では「なさい」)」であったが、謙譲語と「いたす(文中では「いたし」)」と「いたされ」を選ぶ解答者もわずかに見られた。

2009 年度及び 2010 年度と比較してみると、本年の正答率は少し下がっている。2009 年度は 5 問中 3 問に 80%を超える正答率があったが、2010 年度はそれが 2 問に減り、本年も 2 問のままであった。また、例年同じ問題を課しているわけであるが、毎年正答率が 50%を割っているイについては、本年は、2010 年度の正答率 39.9%を下回る 37.1%となった。2010 年度までと本年とでは実施した学科が減っている為、単純に比較は出来ないが、本学学生の敬語運用能力は少しずつ低下している可能性があり、早急に対策を講じるべきである。

3.3. 問 3 基本動詞に対応する尊敬語(敬語)

引き続き敬語に関する問題であるが、問 3 は基本動詞に対応した適切な尊敬語を選ぶことが出来るかを試す問題である。

「一」は「する(文中では「し」)」を尊敬語に

直す問題である。68.9%の正答率であった。どのような誤答が多かったかという点、①「いたす(文中では「いたし」)」を選んだ解答者が 105 名いた。これは尊敬語ではなく謙譲語であるが、このような場面でしばしば間違っ使用されることがある。マニュアル敬語の一つと化している、または丁寧語として使用されている表現である可能性がある。解答者の中にもこのように間違っ表現を耳にしたことがある者がいて、誤答①を選んだのではないかと推測される。従って一概に解答者の無知は責められず、社会全体の敬語の誤用について考える必要がある。

「二」は「言う(文中では「言っ」)」を尊敬語に直す問題である。正答は②「おっしゃる(文中では「おっしゃっ」)」であり、正答率は 61.3%であった。約 60%というのはかなり低い、危機的な数値である。また、誤答が①「おっしゃられ」に集中したこともこの問題の特徴であろう(図 8)。「おっしゃられ」というのは、「言う」の尊敬語「おっしゃる」に尊敬の助動詞「れる/られる」が接続した形で、二重敬語となる。全体の傾向であるが、二重敬語を誤用と思わず選択してしまうということが多い。敬意を高めようとして最大に敬意を払った言葉づかいを実践しようとしているのであろうが、二重敬語が誤用であることを教える必要がある。

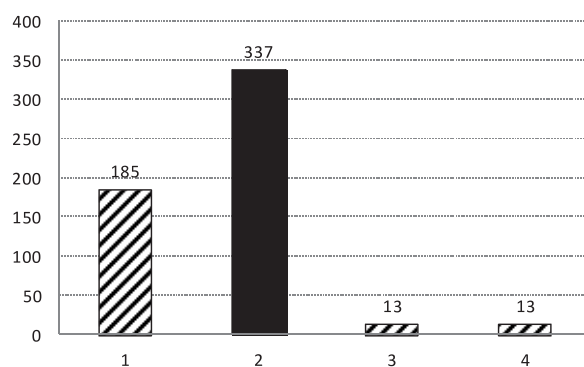


図 8 小問 2 の回答内容

「三」は、「食べる(文中では「食べ」)」を尊敬語に直す問題である。正答率は 50.7%と、「二」よりも更に低く、また「二」と同様に誤答が③「召し上がられ」に集中した(図 9)。③の「召し上がられ」は尊敬語「召し上がる」に尊敬の助動詞「れ

る／られる」が後続した形で、これもまた二重敬語となり、規範的に言えば誤用である。

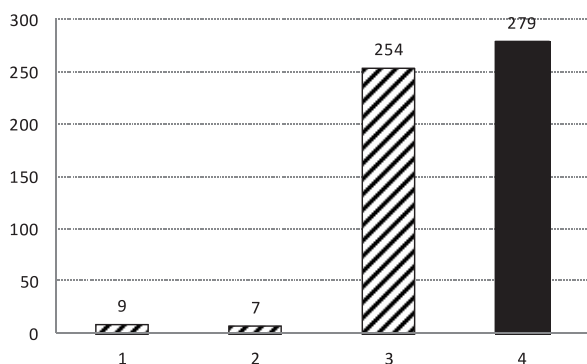


図9 小問3の回答内容

「四」と「五」は、2010年度から新たに追加された問題である。

「四」は、「我が家」を敬語表現に直す問題で、正答率は75.1%であった。正答は「拙宅」であるが、最近はあまり耳にする機会もなくなり、解答者にとっては慣れ親しんでいない語として選ぶことが出来なかったのであろうと推察出来る。

「五」は、「電話した花村です」という文を、敬語表現に直す問題である。この問題については89.5%と高い正答率が得られた。

敬語の問題2問は、男女別に見た場合に、女性の方が圧倒的に正答率が高く、男性の方が正答率が低いという特徴が見られた(図2)。

敬語の問題については、2009年度、2010年度と同じく二重敬語に対する理解の未熟さが浮き彫りとなった。敬語は円滑なコミュニケーションを実現するために必要不可欠なものである。敬語を適切に運用することは、コミュニケーションを円滑にすることにつながる。それは、これから社会に羽ばたいていく本学学生にとって必須のスキルであろう。また、敬語を過剰に使用してしまうという間違いは、使用者本人には気づき難いものであるため、すでに指摘しているとおり、他者の指摘や今後の指導が必要である。

3.4. 問4 慣用表現(文章表現)

問4、問5は文章表現に関する問題で、問4は特に、慣用表現についての知識を問う内容になっ

ている。

全体的な正答率は60.2%で、8つの設問の中でも最も低い。なお、2010年度は61.5%であった為、本年度は2010年度よりさらに正答率が下がっている。慣用表現に対する知識が年々低下していると言えよう。現代の若年層の傾向として、日常生活でこのような慣用表現を使用しない、あるいは慣用表現自体は知っていても、正しい意味を理解しないまま使用している可能性がある。

以下、小問ごとに誤答の傾向などを見ていく。

「一」の「敷居が高い」は毎年正答率が極めて低く、本年度も24.2%と大変低かった。「敷居が高い」の正しい意味は、「不義理や面目のないことがあって、人のところへ訪ね難い」というものであるが、②と解答した者が300人近くに上った(図10)。誤答②に答えが集中した原因として、「敷居が高い」という言葉が「(格式高く思えて)気が進まない」という意味を持つと誤解されていることが推察出来る。

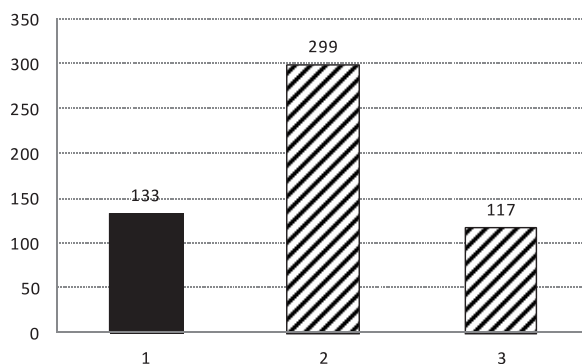


図10 小問1の回答内容

さらに「二」の「わらにもすがる思い」だが、この問題は83.3%と正答率が高い。誤答①を選んだ解答者が86名いるが、「わらにもすがる思い」で課長に助けを求めることは大変失礼にあたる。本学学生の100名近くがこのような失礼な表現を使っているという事実に対して、早急に対策を練らなければ就職難が叫ばれるこの世の中で生き残っていくことが出来ないであろう。切実な問題である。

「三」の「気が置けない」は、正答率47.8%であり、50%を切っている。2010年度は50%を超える正答率があったので、本年度は2010年度と比べて

正答率が下がったということになる。さて、「気が置けない」の本来の意味は「気をつかったりする必要がなく、心から打ち解けることができる」といった意味であるが、現在は逆の意味で捉えられていることも多い。つまり、今回の結果から言えることとして、解答者は普段使い慣れない慣用句に触れ、知識がない為に誤答を選んだわけではない。2010年度と比べて逆の意味の誤答が増えたのは何故か分析してみるに、年々意味が変化しつつある慣用表現の現代の意味を反映した解答を選んだ者が年々増えた結果であるということが言えよう。このような慣用表現は時代とともに、また地域によって意味が変化するものである。現在では誤用とされている言葉が、いつか正しい使い方として主流になっていく可能性もある。

「四」の「二の足」は正答率 86.2%と、小問 4 よりもさらによい結果であった。また、2010年度に同じ問題を課しているが、その時の正答率は 85.7%であり、部分的にでも 2010年度よりも良い結果が得られたことは大変喜ばしいことである。

「五」の「気が多い」の正答率は 59.5%であった。2010年度の正答率 63.2%より低下している。50%代に落ち込んでしまったのは問題である。誤答としては③と解答した者が多く、100名を超えたが、「気が強い」と勘違いした可能性が指摘出来る。

全体を通して、慣用表現については普段から使い慣れていない為に多くの誤答が生まれたような印象を受ける。使い慣れている者であれば、たとえそれが間違った使い方をしたものであっても、それを聞いている年長者あるいは周囲の大人が間違いを指摘することで修正をすることが可能である。そういう経験がない為に、つまり実際に慣用表現を使う機会がない為に、これまでに間違っただけで身に着けた慣用表現を修正する機会に恵まれなかったのであろう。積極的に慣用表現に触れさせ、それを応用させる機会を設けることが必要であろう。文章表現などの授業を開設し、その中で慣用表現について取り扱ってみる必要もあろう。

3.5. 問5 文脈に即した適切なことば (文章表現)

引き続き文章表現について問うた問題であるが、問5では文脈に即した適切な言葉遣い出来るか

を試している。

全体の平均正答率が 85.7%、小問別の正答率は順に 71.1%、82.7%、88.0%、90.2%、93.3%であり (図 11)、2010年度の 72.3%、81.9%、90.7%、90.1%、93.4%とほぼ同じ結果となった。

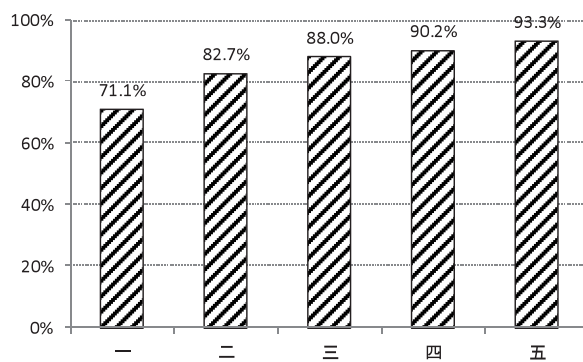


図 11 問5の小問別正答率 (2011年度)

「一」は適切な熟語を選択させる問いで、パソコンの機能を携帯電話の機能と代える (替える) ことが可能であるという文脈であるので、正答は③「代替」となる。例年問5の中では最も正答率が低い問題であり、毎年 70%代前半である。そして、誤答の多くが②「代行」であることも毎年変わらない。

「二」は、②「のどくびを押さえる」という慣用句についての問いである。他の選択肢は、①「手首」③「みぞおち」であったが、どちらも同程度の割合で誤答がみられた。これは 2010年度の結果とほぼ同じである。

「三」は、十分に余裕があるという意味の「優に」を答えさせる問いである。正答率が高いものの、誤答は①「余裕で」に集中した。③「優に」と同じように「楽に～できる」という意味で「余裕で」という表現が用いられることは、現代日本語の口語 (特に若者ことば) においてはしばしばあるが、まだ適切な日本語として広く周知されていない為に、今回の問題では誤答ということになる。これから先、「余裕で」の意味用法が広がればこの解答が正答となる日も来るかも知れないが、今はまだそのときではない。

「四」と「五」は 2010年度から新しく追加された問題であるが、2010年度も本年度も高い正答率 (90%以上) があり、特に議論すべきところはない。

従って、問題の解説を述べるにとどめる。

「四」は、両者ともに成り立たなくなるという意味の「共倒れ」の含まれる語を選択するもので、正答は③「共倒れになる」。他の選択肢は①「共倒れている」②「共倒れる」であるが、「共倒れている」と答えたのはわずか1名、「共倒れる」と答えたのは52名であった。

「五」は、「(の) ような」などの代わりに会話で用いられる助動詞「みたい(な) (終止形は「みたいだ)」の直前に来るものを選択する問いで、正答は体言相当の語を選ぶ必要がある。従って、正答は①「お芝居」である。②「絶対ありえない」③「何とも変わった」はどちらも「みたい(な)」にはそぐわないため誤答となる。

問5については「一」にやや難が見えることその他は概ね高い正答率を維持しており、本学学生の文脈に即した適切なことばを選ぶ能力は低いとは言える。

3.6. 問6 慣用表現

特定の動詞と結びついて用いられることばを取り上げた項目である。それぞれの文章に続く動詞と、その慣用表現の意味を問う形をとっている。特に意味を選択する項目の正答率が低いために、平均で65.8%という正答率となった。

「一」の「物議を醸す」の動詞部分の正答率は61.5%であった。「醸す」の部分③「交わす」、次いで④「振るう」とする誤答の傾向は前年度以前と変わらない。これはやはり「醸す」が読めなかったことによるものによるものと思われる。また意味部分の正答率は67.3%で、誤答として多かったのが⑳「世間の注目になること」と㉑「異なる考えを持つ者がそれぞれの立場から論じ合うこと」の二つであった。㉑は「論ずる」という点、そしておそらく㉒は「注目される」という点からの連想であろう。

「二」の「論戦を交わす」では動詞部分の正答率は75.6%であり、「交わす」の部分⑨「張る」、次いで④「振るう」とする誤答が多かった。意味部分の正答率は88.9%で、誤答は⑬「世間の議論や批判を引き起こすこと」に集中した。「論戦」という語が「議論」を想像させたのではないだろう

か。

「三」の「弁明に努める」では動詞部分の正答率は87.6%、誤答自体は多くないが、①「努める」の部分④「振るう」、次いで⑩「付す」とするものがみられた。意味部分の正答率は82.7%(図12)で、誤答として多かったのが㉓「後で自分の不利益にならないよう前もって手を打つこと」と㉔「証拠になる言葉を得ておくこと」の二つであった。いずれも設問の「誤解を解くため」という部分に注目して「自分の不利益」「証拠」といった語句を連想したものと考えられる。

「四」の「言質を取る」の正答率は動詞部分で33.1%(図13)、意味部分で35.3%と、どちらも最低であり、また誤答もばらつきが大きいという結果となった(図14)。このことから、本学学生における「言質を取る」という表現の認知率の低さがうかがえる。「言質」が読めず、意味も分からなかったのかもしれない。また、新聞を読む、ニュースを聞くといった、社会に関心が向いている言語生活を行っていないと、出会うことの少ない言葉ではないだろうか。少なくとも動詞部分「取る」に関しては44.4%(2008年度)、46.0%(2009年度)、34.4%(2010年度)という結果が続いているため、この分析は過言ではないだろう。誤答のばらつきに関しても、表現自体を知らなければ、続く動詞も意味も一から推測せねばならず、そこに個人差が生じたものと思われる。

「五」の「不問に付す」では動詞部分の正答率は44.7%と、前年度の50.3%からついに50%を切ってしまった。意味部分の正答率は80.9%で、こちらも前年度の90.6%からは後退したが、それでも比較的高い正答率である。この結果からは「不問に付す」という表現の認知率は低い、「不問」という語句からは意味を比較的推測しやすいことが考えられる。表現自体に接する機会は少ないが、文字にすれば理解可能という程度なのであろう。

岸江ほか(2011)でも報告されているが、慣用表現の意味に関しては消去法を使うことのできないことが正答率を低くしたものと思われる。逆に言えば、消去法を使わねばならぬほどに慣用表現そのものに不慣れだということの証左に他ならない。使用したり出会ったりする機会、場面が少な

ということが、個々人の表現方法の乏しさに拍車をかけていると思われる。

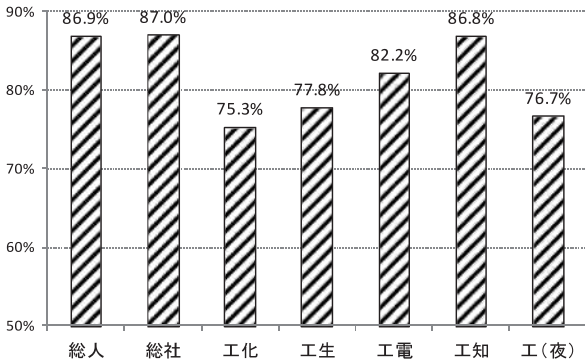


図12 問6-三(意味部分)の結果

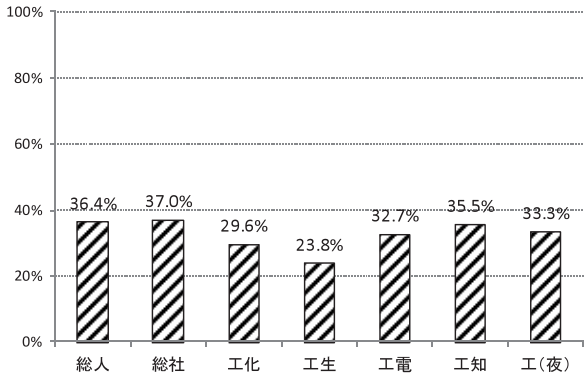


図13 問6-四(動詞部分)の結果

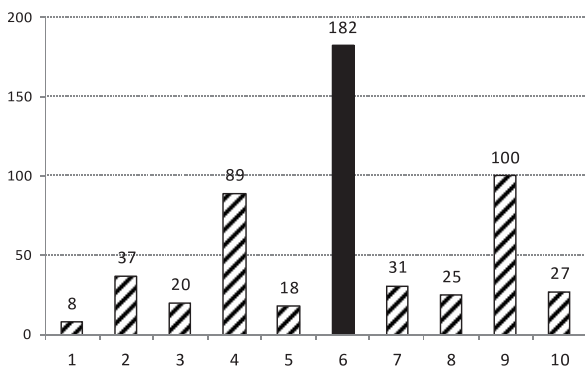


図14 問6-四(意味部分)の結果

66.0%、48.9%となった。語の意味を正確に把握していれば決して難易度の高くない設問だが、6問目が50%を下回ったことなどもあり、問7の平均は66.0%に留まった。以下、誤答の偏った二間について述べる。

「一」は「安価」の類義語を選択する問題である。正解は「廉(やすい)」という意味の③「廉価」であるが、40%以上が②「特価」と答えた(図15)。これは「廉価」の意味を知らないこと、日常において「特価」の方が接する機会の両方が起因しているものと思われる。「特別に安い値段」という意味の「特価」が類義語としては不適當であることを認識していない可能性も考えられる。

「六」は「創造」の対義語を選択する問題だが、わずかながら誤答が正答を上回った(図16)。「創造」と「模倣」の、「オリジナル」と「コピー」という意味関係を把握していないということであり、また「創造」という語の、「新しく生み出す」という側面よりも「つくる」という側面に注目した結果であろう。

類義語や対義語は、各語句の意味、語句動詞の関係をそれぞれ正確に把握していなければ、正解することができない。正答率の低いものが複数あるということは、解答者の語彙力の不足を示すものとも言える。

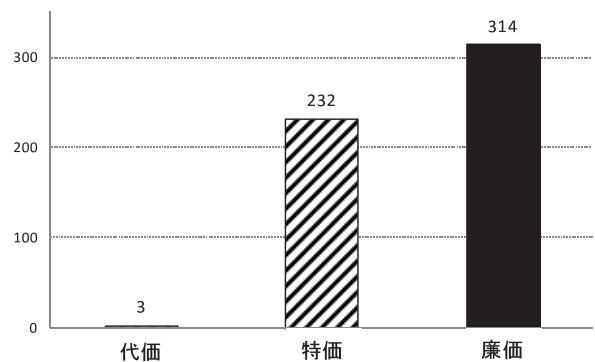


図15 問7-一の結果

3.7. 問7 類義語と対義語

ことばの意味に関連して、類義語と対義語の意味を把握しているかどうかを問う設問であり、各問いの正答率は順に57.1%、78.9%、84.0%、60.9%、

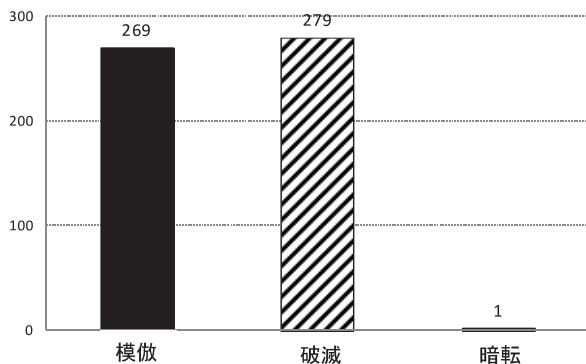


図 16 問 7-六の結果

3.8. 問 8 熟語の構成

熟語の構成を見分ける問題である。各問いの正答率は、順に 49.6%、81.3%、88.5%、74.7%、35.1% で、「二」から「四」の正答率は低くないものの、問 7 と同様、全体としては 65.9% と芳しくはなかった。これは「一」と「五」の解答が散らばったことによる。

「一」は「食卓」と同じ構成の語を選択するというもので、一文字目が二文字目を連体修飾する関係となっており、正答は④「居間」である(図 17)。正答の次に多かったのは②「隠居」であるが、これは「隠れて居る」で、一文字目が二文字目の表す行為を連用修飾しており、異なる語構成であるために全くの間違いと言える。

「五」は「一攫千金」と同じ構成の語を選択するというもので、後ろの二字が前の二字の目的語となるという構成となっている。正答は③「一望千里」で、次に多かったのは①「一騎当千」であった(図 18)。これは「一騎で千の敵に当たる(匹敵する)」という意味で、「主語・述語」の関係であり、したがって訓読の順としても違うものである。

また、「五」は全体的に正答率が低く、総合科学部と工学部との差はさほど大きくはない(図 19)。文系である総合科学部の正答が半数を切っていることにも危機感をおぼえる。

正答率の低い 2 問ともに言えることであるが、解答が散らばるのは、各選択肢の語構成がどういったものかの理解が不十分であるためであると考えられる。高校までの国語文法、また漢文に関する知識、理解が不足しているのではないだろう。

その理由として、漢字の意味を 1 字ごとに理解するという学習がおろそかになっているのではないかと思われる。

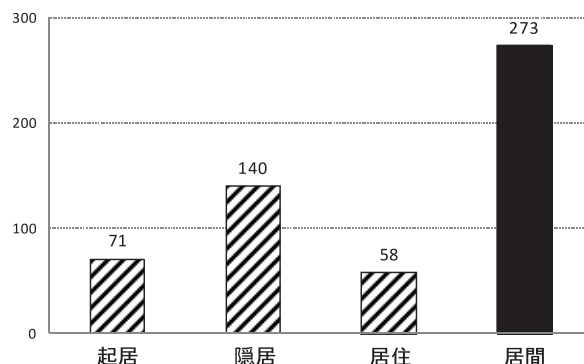


図 17 問 8-一の結果

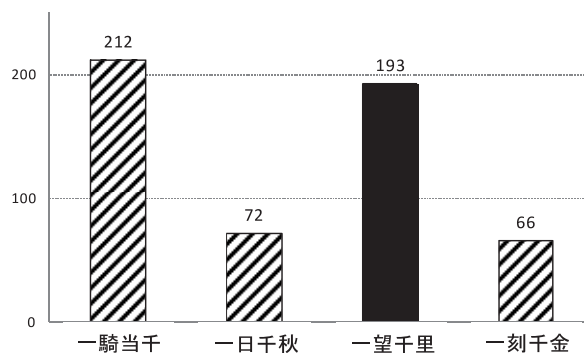


図 18 問 8-五の結果 (選択肢)

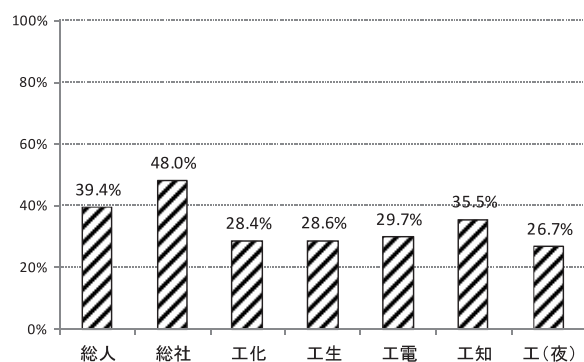


図 19 問 8-五の結果 (学科別)

4. まとめ

テスト全体の正答率を学科別に順位付けすると、図 23 のようになる。前述した通り、今年度のテストの実施は各学科、任意としたために参加学科はかなり減っている。しかし図 20~22 の前年以前の結果³⁻⁵⁾と比較して大きく正答率が変化した学科

はない。

2008年度の全体正答率は73.8%、2009年度は73.6%、2010年度は71.1%で、今年度は69.0%となっている。前年以前で上位を取り続けていた医歯薬各学部が不参加であることも要因の一つであろうが、数値としては正答率は低下傾向にある。前年までの傾向も鑑みて、仮に全学科が参加したとしても、全体の平均正答率が大幅に上昇するとは考えにくい。

また、本テストの元である日本語検定が設定している正答率は70%以上であり、今回参加した工学部はいずれもそれに達していない。現実での運用実態は不明だが、少なくとも知識として持っていなければ実際に運用することは困難である。日本語力は日常のコミュニケーションのみならず、大学におけるプレゼンテーションや論文の執筆に不可欠なものであり、さらに就業以後には基本以上の能力が求められることもあるだろう。

この結果を受けて、本学学生の日本語運用能力向上に向けて、日本語に関する教育内容の再検討、改善が必要であることをここに明記しておきたい。

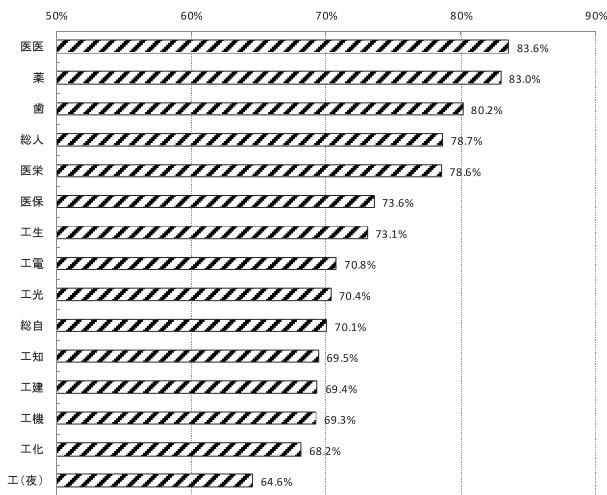


図 20 2008 年学科別正答率

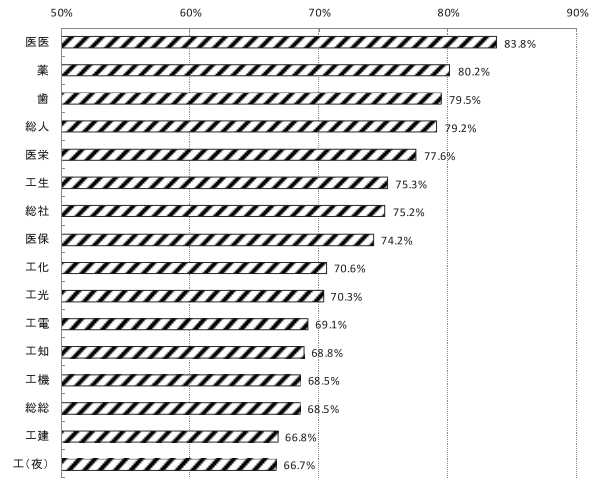


図 21 2009 年学科別正答率

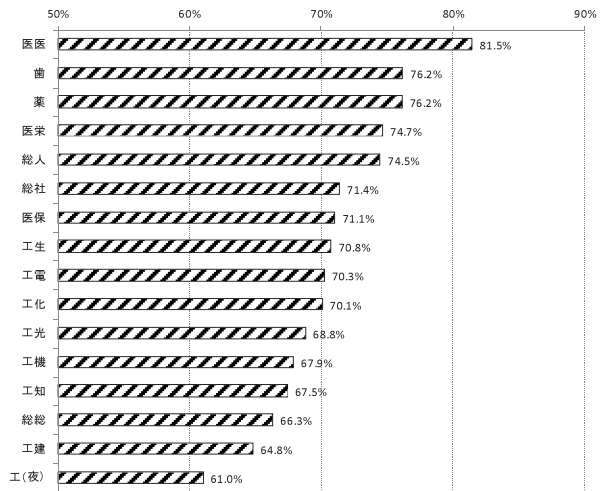


図 22 2010 年学科別正答率

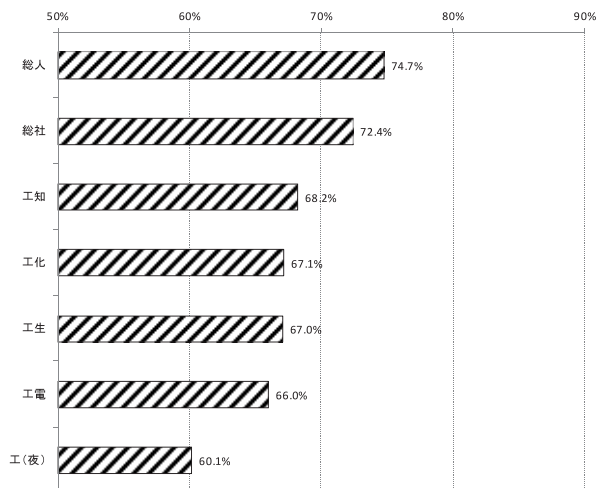


図 23 2011 年学科別正答率

参考資料

- 1) 小野 博・村木英治・林 規生：日本の大学生の基礎学力構造とリメディアル教育, NIME 研究報告, 独立行政法人メディア教育開発センター, 2005
- 2) 石川昌紀・矢田 勉：日本語検定公式3級過去・模擬問題集 (平成19年度版), 東京書籍, 2007
- 3) 岸江信介・仙波光明・堤 和博・清水勇吉：日本語運用能力の向上をめざして——日本語力テストの実施, 大学教育研究ジャーナル, 6, 75-84, 2009
- 4) 岸江信介・仙波光明・堤 和博・岡部修典・清水勇吉・坂東正康・村田真実：2009年度日本語力テスト実施報告, 大学教育研究ジャーナル, 7, 159-172, 2010
- 5) 岸江信介・仙波光明・堤 和博・村田真実・岡部修典・清水勇吉：2010年度日本語力テスト実施報告, 大学教育研究ジャーナル, 8, 138-152, 2011

[資料]

日本語能力検定問題抜粋

問1 各文の——部分の言葉を漢字を使って書くと、【 】内のどちらの漢字を用いるのが適切でしょうか。番号で教えてください。

一 【①荒 ②粗】

- ア 彼は、昔から金遣いのあらい男だった。
- イ ずいぶん人使いのあらい上司だ。
- ウ 細部の詰めができておらず、スケジュールの組み方があらい。

二 【①慎 ②謹】

- ア 体のこともお考えになり、酒を少しつつしまれてはいかがですか。
- イ つつしんで、お祝いの言葉を申し上げます。
- ウ 言葉をつつしみなさいと注意された。

問2 高校時代のクラス会が開催され、当時の担任だった先生が出席しました。クラス会の幹事が、先生にお礼の手紙として、次のような文章(頭語・結語・後付けなどは省略)を書きました。()に入る表現として最も適切なものを選んで、番号で教えてください。

紅葉の便りが届く季節、先生にはまもなく喜寿をお迎えになると (**ア**)、まことにおめでとうございます。

先日は、私ども三年一組のクラス会にご出席くださりまして、ありがとうございました。先生が (**イ**) と知らせましたもので、先生も (**ウ**) とおり、三年一組は四十八名でしたが、四十二名もの諸君が出席してくれまして、幹事一同、本当にうれしく思っております。先生が、「出席をとる」と (**エ**) て、旧姓で点呼を (**オ**) ましたが、タイムスリップしたようで、とても懐かしくなりました。次の機会にもお目にかかれまして、楽しみにしております。

- ア……①お聞きになって ②傾聴し ③伺い ④お耳に入れ
- イ……①ご出席になられる ②ご出席くださる ③ご出席される ④出席いたす
- ウ……①知っている ②存じておられる ③存じ上げている ④ご存じの
- エ……①申し上げ ②おっしゃっ ③おっしゃられ ④言われ
- オ……①なさい ②呼ばれ ③いたし ④いたされ

問3 一～三の文の——部分を敬語を使って言おうとすると、どのような言い方が適切でしょうか。適切なものを一つ選んで、番号で教えてください。

- 一 Tシャツのサイズは、Sに上ますか。
[①いたし ②いたされ ③なさい ④なさられ]
- 二 先生、ホームルームのとき先生が言った大学の説明会のことで、ご相談したいのですが。
[①おっしゃられ ②おっしゃっ ③申され ④お話しし]
- 三 もう少し料理を食べてはいかがですか。
[①いただかれて ②いただい ③召し上がられ ④召し上がっ]
- 四 【引越しを知らせる手紙の中で】
近くにおいでの際は、ぜひ一度我が家にもお立ち寄りください。
[①拙邸 ②拙宅 ③拙屋]
- 五 【町内会長の自宅を、電話してから訪問して】
先ほど電話した花村です。
①お電話をいたしました花村です
②お電話をかけました花村でございます
③お電話をしてさしあげました花村でございます

問4 それぞれの見出しに掲げた言い方を本来の意味で使っているのはどの文でしょうか。一つ選んで、番号で教えてください。

一【敷居が高い】

- ①借金をしたままの伯父のところへ挨拶に行くのは敷居が高い。
- ②オペラを楽しんでみたいという気持ちはあるが、劇場へ行くのは敷居が高い。
- ③県下でベストエイトを目指すとなると、これは少々敷居が高い。

二【わらにもすがる思い】

- ①報告書の提出期限に間に合いそうもないので、わらにもすがる思いで課長に手助けをお願いに参りました。
- ②夫の行方が知れず困り果てたわたしは、わらにもすがる思いで、占い師のもとを訪ねた。
- ③この間、お互いわらにもすがる思いで協力し合ってきたわけだし、これからもよろしく頼むよ。

三【気が置けない】

- ①大山部長は大学の先輩だし、気が置けない関係じゃないのだから、相談してみたらどうかな。
- ②あいつは腹の中で何を考えているのか分からない男で、全く気が置けない。
- ③岸田君とは小学校以来の付き合いで、今でも気が置けない間柄なんです。

四【二の足】

- ①そのとき、わたしは、突然後ろから二の足をつかまれて引き戻された。
- ②一度攻めても、早く二の足を出さないと攻撃がとぎれてしまう。
- ③あまりにうますぎる話なので、誘いに応じるのに二の足を踏んだ。

五【気が多い】

- ①僕の父は気が多くてね、やたらにいろんなことをやりたがって困る。
- ②友人の中野君は気が多いから、どんな頼みでも引き受けてくれるんだ。
- ③わたしの弟は気が多くてけんかばかりしてくるから、母は心の休まる時がない。

問5 一～五の文の（ ）に入る言葉として適切なものを一つ選んで、番号で教えてください。

一 パソコンの機能は、携帯電話でもおおむね（ ）可能になった。

- [①代置 ②代行 ③代替]

二 派内の最大グループの票が確実となれば、相手陣営の（ ）を押さえたも同然だ。

- [①手首 ②のどくび ③みぞおち]

三 ベンチャー企業を起こしたこの女性によれば、月に三百万円は（ ）稼ぐという。

- [①余裕で ②存分に ③優に]

四 あんまりわたしを頼ってばかりいると、（ ）ようなことになりかねない。

- [①共倒れでいる ②共倒れる ③共倒れになる]

五 ねえ、聞いて聞いて。（ ）みたいなできごとがあったのよ。

- [①お芝居 ②絶対ありえない ③何とも変わった]

問6 一～五の太字で表した言葉は、特定の動詞と結び付いて用いられることが多いものです。結び付く動詞を選んで、①～⑩の番号で教えてください。一つの動詞は、一回しか使えないこととします。また、特定の動詞と結び付いた——部分の言い方が表す意味を、⑪～⑳の番号で教えてください。

- 一 何かと**物議**を_____
- 二 与党と**論戦**を_____
- 三 誤解を解くため**弁明**に_____
- 四 交渉の中で**言質**を_____
- 五 過去は**不問**に_____

- ①努める ②量む ③交わす ④振るう
- ⑤囲む ⑥取る ⑦醸す ⑧預ける
- ⑨張る ⑩付す

- ⑪やむをえない理由などがあつたことを説明すること
 ⑫異なる考えを持つ者がそれぞれの立場から論じ合うこと
 ⑬世間の議論や批判を引き起こすこと
 ⑭取り立てて問題にしないこと
 ⑮証拠になる言葉を得ておくこと
 ⑯後で自分の不利益にならないよう前もって手を打つこと
 ⑰それまで従わせられてきた相手に背くこと
 ⑱自信のありそうな様子を言動に表すこと
 ⑲他人より早く物事に着手すること
 ⑳世間の注目になること

問7 【 】に記されている言葉に対して、一～三は意味の最も類似した語（類義語）を、四～六は対照的な意味を表す語（対義語）を選んで、番号で答えてください。

《類義語》

一【安価】

[①代価 ②特価 ③廉価]

二【遺憾】

[①残念 ②観念 ③失念]

三【食客】

[①居候 ②鈍物 ③浪人]

《対義語》

四【高尚】

[①低級 ②卑俗 ③凡庸]

五【統一】

[①分解 ②分別 ③分裂]

六【創造】

[①模倣 ②破滅 ③暗転]

問8 一～五の【 】内の熟語と同じ構成（組み立て）のものを選んで、番号で答えてください。字と字の意味的な関係を考えて答えてください。

一【食卓】

[①起居 ②隠居 ③居住 ④居間]

二【急襲】

[①連打 ②投球 ③攻守 ④守備]

三【脱帽】

[①死亡 ②混紡 ③防風 ④暴挙]

四【非常識】

[①無神論 ②不適格 ③未開地 ④否定的]

五【一攫千金】

[①一騎当千 ②一日千秋 ③一望千里 ④一刻千金]

解答用紙と解答

解答用紙

学部・学科	学部	学科	性別
-------	----	----	----

問1

一 ア ①	イ ①	ウ ②	二 ア ①	イ ②	ウ ①
-------	-----	-----	-------	-----	-----

問2

ア	③	イ	②	ウ	④	エ	②	オ	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問3

一	③	二	②	三	④	四	②	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問4

一	①	二	②	三	③	四	③	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問5

一	③	二	②	三	③	四	③	五	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問6

一	⑦・⑬	二	③・⑫	三	①・⑪	四	⑥・⑮	五	⑩・⑭
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----

問7

一	③	二	①	三	①	四	②	五	③	六	①
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問8

一	④	二	①	三	③	四	②	五	③
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---